

編集・発行 本庄ふるさと会編集委員会



ご紹介ください！
新会員募集中！

本庄ふるさと会の発展と充実を図るため
新会員を募集しております。由利本庄市
出身首都圏在住者を御紹介ください。

お問合せ
本庄ふるさと会事務局 池田 哲三

本庄ふるさと会

第50号

このたび、「本庄ふるさと会会報」が50号の節目を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

「本庄ふるさと会」は、平成元年11月に結成以来、首都圏在住の出身者とふるさと本庄との交流の促進のため、その橋渡し役を担って来られました。

平成2年9月に発行された会報第1号から、この50号までの間には、「ふるさと探訪ツアー」や、会員同士の「親睦旅行」などの活動を通して、活発に交流を継続されていることが綴られております。

このようにして、現在でも「本庄ふるさと会」が活躍されていることは、池田会長はじめ関係者の皆様の熱意とご努力の賜物であり、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

さて、本市では、平成27年3月、次の10年を見据えた新たな総合計画「新創造ビジョン」を策定いたしました。

この計画では、「人口減少に歯止めをかけること」を最重要課題と捉え、「力強く躍進する由利本庄市」を目指し、各種施策を積極的に展開して



本庄ふるさと会会報
50号を記念して

由利本庄市長 長谷部 誠

いるところであります。

最大の目玉事業である「総合防災公園整備事業」は、平成27年12月から「アリーナ建設工事」に着手しており、平成30年の完成を目指し、順調に整備を進めております。

防災公園の整備により、スポーツ交流と防災の両面から、本市の発展に貢献するものと、大きな期待を寄せております。

この他にも、本市とにかほ市、山形県の酒田市、遊佐町の3市1町の連携により、「鳥海山・飛島エリア」が、秋田県で初めてとなる県境を越えた「ジョパーク」に認定されるなど、本市の様々な地域資源が評価されてきております。

これらを更に磨き上げると共に、首都圏など、市外へも積極的に発信して参りたいと考えておりますので、皆様におかれましては、「ふるさと応援団」として、本市発展のため、引き続きお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、「本庄ふるさと会」の益々の発展と、会員皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。



会報「本庄ふるさと会」
50号発行に思う

本庄ふるさと会会長 池田 哲三

今回の発行をもって、お陰様で50号となりました。日頃は会員各位にご協力いただき、そして行政、役員各位による会報への寄稿に心より感謝申し上げます。思えば平成元年に当会が設立（会員数653名）、平成2年度（会員数818名）には会員名簿の改訂版を発行しました。そして平成3年より会報「本庄ふるさと会」を年2回発行することになり、題字は私の小学校恩師の書道家・後藤竹清先生にお願い致しました。当初は役員数名が発行に携わり、校正・印刷・会員への郵送は市役所の地域振興課担当職員の尽力によるものでした。平成16年3月、1市7町の平成の合併により「由利本庄市」の誕生となり、平成17年より、発行の主体が当会の役員会となり、企画・割付け・校正・印刷、そして会員への郵送等全面的に当会の役員会の業務となりました。そして編集のリーダーは雑誌の出版社に勤務していた役員の方にお務めいただき、7年程頑張ってもらいましたが、画家として絵の制作に集中したいとのことで、

責任者を突然退任しました。幸いにも役員の中にミニコミ誌を発行していた実績のある遠藤桂子さんに平成25年（43号）より引継ぎ、女性の優しいセンスとソフトな感じの斬新な紙面となり、多くの会員から大変好評をいただき、50号の発行となりました。また、ふるさと市の市民にも読んでいただきたく、現在では市役所や公共施設にもおいていただいております。

最近はパソコン、スマホ等でメール、ライン、ツイッター、SNS等でスピーディーに情報やお互いの情報交換、連絡も簡単に出来る時代となり、アナログな紙ベースの会報はどうなのか？ という意見もあります。今の所継続して発行したいと思っております。

今後も更に内容の充実、新しい企画の記事も考えて行きたいと思っておりますので、会員各位の更なるご協力をお願い申し上げます。本会の趣旨である、ふるさと市の発展に対する寄与、会員の親睦と情報交換のツールとして会報を生かしていきたいと思っております。一昨年より当会のホームページも、

役員の佐々木勝さんにより開設され、充実したホットで新鮮な情報の提供もできるようになりました。会員のホームページへの積極的な参加と楽

しい会の運営をしたいものです。会員のご活躍とご多幸を心より祈念申し上げます。

第9回

由利本庄ふるさと会 「連合会の集い・懇親会」

本庄ふるさと会
役員
工藤俊行

平成28年6月26日・アルカディア市ヶ谷に於いて来賓を含め、約100名が参加し盛大に開催されました。

連合会とは、由利本庄市が誕生した2年後に発足し、由利本庄近隣のふるさと会（大内会・西目会・岩城会・鳥海会・矢島会・由利中学校同窓会・東由利会及び本庄ふるさと会）で構成されている「ふるさと会」の集合組織であります。ちなみに連合会会長は、我が本庄ふるさと会会長でもあります池田哲三さんが務めております。「本庄ふるさと会」からは、12名参加しました。

第一部の集い・会長挨拶の中で連合会役員において論議した結果、来年の第10回を契機に現連合会を見直したい旨の発言があり、今後検討していくことになりました。また無記名のアンケートが配布され、継続・解散・合併等の意

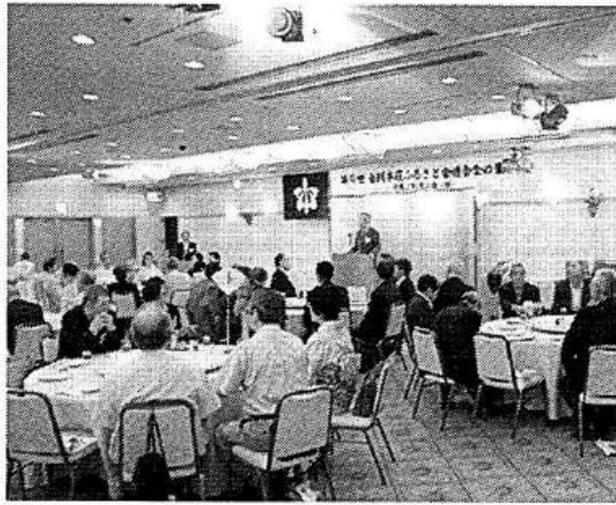
見を頂くことになりました。しかしながら鈴木和夫由利本庄市議会議長は、このまま継続の意見もありました。

第二部懇親会は、松本幸江さんのような「故郷なまり」がある司会ではなかったが余興に入り「水木昌平」さんによる歌謡ショー、続いてカラオケが始まり、多数の喉自慢が披露されました。「本庄ふるさと会」からは、野口和夫さんがイントロリーシ合場の「ど

よめき」を呼び拍手喝采を浴びていました。後で分かったことですが、野口さんは警視庁退職後、プロの歌手になっているとのこと。「本庄ふるさと会」のメンバーも「びっくり」。道理で歌が上手なのも納得がきました。「本庄ふるさと会・総会」でも是非、披露して頂きたいと思っております。

また、物産店に秋田県も後援している「日本てぬぐい」を販売。子吉川にある「旧由利橋と本庄高校ポト」がデザインされていることを池田会長から紹介され完売の運びとなりました。

ファイナレは本庄ふるさと会副会長・安井賢光さんの指揮で「故郷（ふるさと）」の大合唱の3時間半の幕を閉じ物産店のお土産袋を抱えて帰路につきましました。



約100名が参加し大盛況

由利本庄ふるさと会連合会の
平成28年6月26日（日）



安井賢光さんの指揮で「ふるさと」大合唱



石水木昌平さんによる歌謡ショー

お知らせ

第28回本庄ふるさと会総会・懇親交流パーティー 平成28年11月6日（日）開催！

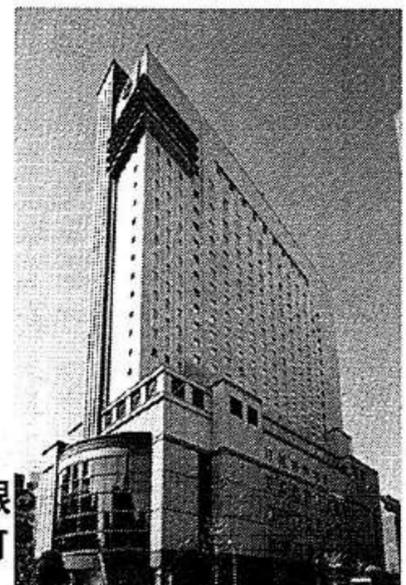
恒例の本庄ふるさと会総会・懇親交流パーティーが今年も開催されます。新橋の第一ホテル東京にて。お誘いあわせの上ご参加ください。

日時：平成28年11月6日（日）
受付 AM11:00～
総会 PM12:00～
懇親交流パーティー
PM12:30～15:00

会場：第一ホテル東京（新橋第一ホテル）
東京都港区新橋1-2-6
電話 03-3501-4411（代表）

会費：8000円 年会費2000円
ゲスト：有線でリクエスト1位「永遠のひと」を歌う、「Haruyo」さん

アクセス●JR山手線・都営浅草線・メトロ銀座線・ゆりかもめ新橋駅、都営三田線内幸町駅、大江戸線汐留駅



石沢に桜を贈る会 鈴木道子さんの出版ご報告



約110名が参加し大盛況でした

申込み締切 平成28年10月23日（日）



本荘ふるさと会への係り

本荘ふるさと会副会長
安井 賢光

私が、初めて本荘ふるさと会に係りを持ったのは、平成5年くらいからだと思えます。故荒川会長の時代、総会が高輪プリンスホテル、目黒雅叙園の時代でした。きっかけは友人の佐々木栄吉君が、本荘市役所の、ふるさと会担当をしていたのがきっかけだったと思います。あまり積極的ではなかったのですが、佐々木君に誘われて、仕方なくというか何となく参加していた感じでした。

何年か総会に参加しているうちに、メンバーの方たちとも知り合いとなり、また、市の職員の方や、議員さんたちが、私の父を知っていてくれたこともあり、親しみを覚えるようになってきました。実は、私の父は、24年間、本荘市議会議員をしており、職員の方、議員の方には大変お世話になっておりました。もう、だいぶ昔に他界しておりますが、改めて、皆様にお世話になりましたこと、深くお礼申し上げます。

さて、話を戻しますが、平成12年頃でしょうか、役員の皆様から、私も幹事となってふるさと会の運営を手伝うようにとお誘いを受けるようになります。役員会にも出席することとなりました。当時の役員会は、田端にある本荘市の東京連絡所で行われており、会議が終了すると、賄のおばさんが作ってくれた手料理で一杯やるのが楽しみでした。その連絡所も廃止となりましたが、処分する際に、経費などが、佐々木君から相談を受けたことも思い出です。

そして平成17年、池田会長の誕生とともに、幹事長を任せられることとなり、一時は役員会の会場確保など、大変でした。今は保科事務局長のご協力のおかげでその心配はなくなりましたが、こうした集まりを運営していく中で、やはり一番問題なのは会議室の確保だと思えました。そういうことでは、秋葉原の会議室「おーる秋田」の存在も貴重なものだと思います。

本荘ふるさと会も順調に運営されつつあると思われたさなか、武田副会長のご逝去という事態に見舞われ、役員一同、総会に向けた新しい体制づくりを余儀なくされました。こうした経緯の下で、私も

副会長を任せられるということとなったわけですが、生来面倒な役割は嫌いな質なので、皆様にご迷惑をおかけするのではと危惧するところでもございます。

ふるさと本荘に住んでいるのは、私の妹家族だけという現状で、本荘のまちとはだいぶ疎遠となつていっている現状です。平成の大合併後の由利本荘市の発展を願う気持ちは変わるものではありません。今後とも仲間の皆様と共に、お互いの交流を深めながら、少しでもふるさと由利本荘市の発展を応援してまいりたいと思います。

ふるさとの訛りなつかし

本荘ふるさと会副会長
松本 幸江

「メガネ・メガネ」「昨日は何食べたっけ」「今ここに何しに来たんだ」なんていう事が日常茶飯事の今日この頃、会報50号に思い出を…。思い出せない!! それではと創刊号を見てみると平成2年。「第一回本荘ふるさと会」は平成元年でした。40才・今の娘の年齢という事は、若くて自称秋田美人の頃だった!!

ふるさとからの塩漬野菜・漬物・うどん・味噌等の特産品は、なつかしさもあつてか行列ができ、大変な売れゆきでした。皆様、何10年ぶりでもあった友人・ご近所の方々の楽しいひとときを過ごしてらっしゃいました。

私が表舞台に立つようになったのは、記録によると第3回の懇親パーティーの中で抽選会に、司会として登場したのが始まりです。その時は多分深い考えもなく、せっかくだから本荘弁でやりとりをした方が良いかなど思ひ、「なんとえがったな!」どこの出身だべが?」などと話していたのが、「忘れてた言葉思い出しておもしろい」と言われ、本荘弁が帰ってきたよかったです。と言われた事に気を良くし、ここでは故郷にいる感じになつてもらえるように本荘弁で通そうと決めたのです。

本荘ふるさと会 ホームページ

<http://honjo-furusatokai.b.la9.jp/>

●

内容盛り沢山の山内盛盛な画像などのイベントの御好評をいただいております。ぜひご覧ください!

荒川会長が掲げたふるさと会のあり方、「気軽に話し合える心のよりどころ」「首都圏と本荘を結ぶ情報の拠点」というとても素敵な言葉を思いかえし、合併して10年経過するのを機に、基本的な理念は変えず、新しいかたちでの「ふるさと会」を考えていかなくてはならないのかとも思っています。

若い方々へのお誘いは、インターネットでの配信で会員になつていただく、また、昔若かった方々は友人・知人を誘い合つて元気に行事に参加していただきたいと思えます。

そのためにも皆様からのご要望・ご意見をよせて頂き、より楽しい会にしていきたいと希望を持っています。

旅行、屋形船、イベント、ふるさと会総会・懇親会。たくさん参加をお待ちしています。「なんぼでもしゃべるが、遊びに来てくれな」。

今では本荘に帰省して、地元で長年住んでいる同級生に、「幸江、オレだつて今頃そんな言葉なば使わねど」と言われていきます。自称本荘弁を守る会会長の私としては、いつまでも使い続けて忘れないでらうのが役目と、使命感に燃えています。

荒川会長が掲げたふるさと会のあり方、「気軽に話し合える心のよりどころ」「首都圏と本荘を結ぶ情報の拠点」というとても素敵な言葉を思いかえし、合併して10年経過するのを機に、基本的な理念は変えず、新しいかたちでの「ふるさと会」を考えていかなくてはならないのかとも思っています。

若い方々へのお誘いは、インターネットでの配信で会員になつていただく、また、昔若かった方々は友人・知人を誘い合つて元気に行事に参加していただきたいと思えます。

そのためにも皆様からのご要望・ご意見をよせて頂き、より楽しい会にしていきたいと希望を持っています。

旅行、屋形船、イベント、ふるさと会総会・懇親会。たくさん参加をお待ちしています。「なんぼでもしゃべるが、遊びに来てくれな」。



活動の今後の現況と今後について

本庄ふるさと会幹事長

湯田 友夫

平成17年11月20日に開催された第17回総会において、幹事に承認されてから早いもので、今年で11年目となります。この間の大きな転換点としては、平成21年6月1日までは行政が事務局となっていたのが、自前で行うことになったことです。引き継いだ当初は、役員同士に多少の戸惑いはあったと思いますが、故武田夏男副会長を中心に力を合わせて、スムーズにふるさと会の運営が行くようになり、今日までに至っています。また現在は佐々木勝幹事がホームページの担当となり、内容もリニューアルされて、会員皆様へリアルタイムに情報が発信できるようになっています。ふるさと会の活動として、年2回の会報誌の発行、屋形船ツアー、日帰り旅行、総会・懇親交流パーティ、由利本庄市連合会の集いへの参加などがあります。年齢層が上がり、全体的に若手の参加者が少ない傾向にあります。このことは参加者が

固定化されていて、新規の参加者が少ないことを意味しています。何もこのことは、本庄ふるさと会だけの事象ではなく、中学、高校、大学の同窓会、会社のOB会などの集まりでも同様な問題を抱えています。40代以下の人は、秋田新幹線の開通、携帯電話、スマホの出現などにより、田舎より上京してきてからも、60代以上の世代と比較して生まれ故郷が時間的に近くなり、また、いつでも両親、友人などと連絡ができる環境に慣れ親しんでいることにより、本庄ふるさと会に出席しようとする意識が希薄になっていくことも一つの要因と考えられます。また、働き世代でもあり、忙しく時間が取れないこともあると思います。

今後、実現するかどうかは疑問ですが日本海の新幹線建設、現在建設中の日本海沿岸自動車道の完成により、ますます田舎への移動手段が多様化・短縮化されて、望郷の念がさらに希薄になる可能性があります。いずれにしても、自分もそうであったように50代、60代と年齢を重ねるとともに、同郷の人と直接お会いして交流を深めたい気持ちが強くなったので、私共役員は若い世代の方が将来参加したいと思うようになった時の受け皿として、「本庄ふるさと会」を

守っていくことが必要であり、義務ではないかと思えます。そのためにも、今から30代、40代の方から役員候補者を探して、役員に就任してもらおう努力を続けていきたいと思えます。

活動について

本庄ふるさと会事務局長

保科 勇記夫

今年度から、武田前事務局長の後を引き継がせて頂きました。保科と申します。総会・パーティーの返信ハガキも私宛てになっております。今後とも宜しくお願い致します。返信ハガキには是非ご意見や、メールアドレスなどお書き下さい。参考にさせて頂きます。それに、東京近郊で行われる由利本庄市関係の行事（結構あります）をお知らせします。ので応援をお願い致します。当会の役員会は、1年に4〜5回行われます。会議14:00〜17:30、終了後19:30まで 飲みながら会議。会報や総会案内の発送作業は、資料を折ることから始まり、他の物と一緒に封筒に入れ、封をする。切手や宛名ラベルを

貼り、間違いがないか確認する作業は本当に大変ですが、おしゃべりをしながら楽しくやっています。また、どうしたら総会で楽しんでいただけるか？ どうしたら若い人達が入会してくれるのか？ など議題はたくさんあります。一緒に活動して頂ける方を募集致します。勿論、お仕事、家庭が優先です。皆さんの空いているお時間、お力をお貸し下さいませ。

さて、簡単な自己紹介をさせて頂きます。昭和34年生まれ、鶴舞小学校、南中、本庄高校、某大学を卒業、実家の大嶽町には80歳を過ぎた両親が住んでいます。仕事はサラリーマンの聖地・新橋で昭和のスナック「籠」（この漢字読めますか？）を開店して30年近くになります。「食べて・飲んで・歌える店」を目指して、本庄うどんは勿論、春は山菜、夏は岩カキ、イワナ、秋は本庄米、冬はキリタンポなども用意しております（要予約）新橋界隈で飲む機会がありましたら是非おいで下さい。この会報見たよと言って頂いた方には生ビール1杯か天寿1杯をサービス致します。最後に、由利本庄までの交通手段を書きます。高齢の両親がいるので年に数回は帰省しております。通常は新幹線回数券使用しますが、繁忙期

は使えません。実家に車が無い私は、古川まで新幹線で行き、そこからレンタカーを借り、由利本庄へと向かいます（鳴子温泉、鬼首、鳥海町経由約3時間）2名以上なら、新幹線で盛岡―秋田―本庄と回るよりレンタカー代金入ってもお得ですし、時間も大差はありません（注・JRのレール&レンタカーは繁忙期利用不可）。

他の方法 ①夜行バス（私はOKですが、妻が嫌がるので乗りませんけど）秋田行きバスは激安。②ひと筆書きルート（東京―新潟―本庄―秋田―盛岡―大宮、秋田新幹線往復より安い）③JRの株主優待券使用（2枚で乗車券指定券含めて4割引、繁忙期使用可、優待券はチケット屋で販売しています）④モバイルスイカ（切符の受取がスマホなので便利で安い）⑤飛行機（早割などあり）⑥新庄からレンタカー（古川より距離があるので高いし新幹線の本数が少ない）⑦東京から車（GW・お盆は並みの渋滞ではなく大変）⑧JR大人の休日倶楽部（繁忙期が使用不可）
これから本庄ふるさと会を宜しくお願い致します。また、ホームページに載せる情報などがありましたらお寄せくださいませ。

体験 Report

屋形船ツアー「濱田屋」 隅田川の夜景に参加して

野口和夫

7月17日の日曜日、快晴に恵まれ、恒例の屋形船ツアーに参加しました。今回は、北千住乗船所の出船で東京スカイツリー周遊コースでした。「恒例」と言いましたが、入会間もない私にとつては初の参加です。様子もわからず皆さんと行動を共にさせて頂きましたが、気取らず和気藹々の雰囲気、言いたい事を言いながら盛り上がり、最高に楽しい時間を過ごさせて頂きました。

ましの姿は、一見老舗旅館の女将風なのですが、しゃべり出したら方言まる出しで、しかも気にならない程度の迷い調子で大いに盛り上がりました。

屋形船は畳敷きでテーブルと椅子で料理も色どり良く味もまずまず。ブドウ酒などの差し入れもあり、ほど良い気分になったところで、松本幸江さんの司会進行でカラオケタイムです。緋の浴衣でお出

「屋形船」は平安時代にその原型が出来、江戸時代には大名は武家の持ち船、昭和初期には芸者衆と一緒に船遊びをしていたとのこと。本庄ふるさと会の秋田美人？と共に過ごした楽しい時も、下船の時間となつてしまいました。東京スカイツリーなどの夜景を期待しての参加でしたが、明るいうちの下船で残念でした。が、幹事、そして関係者のご苦勞に感謝し、来年もよろしくお願いいたします。ありがとうございました。



料理を楽しみながら話もはずみずみ

お待ちかねカラオケタイム

風情ある屋形船

体験 Report

「木瀬部屋 朝稽古見学&ちゃんこ鍋を食べる会」

2016年9月4日(日)

参加者32名

担当 保科勇記夫

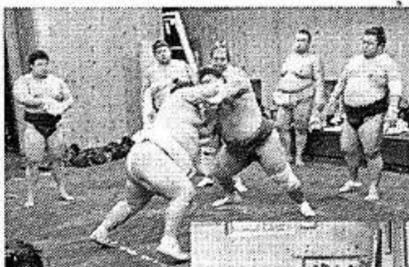
大相撲は、国技館やテレビで本場所を見る事はあっても、稽古を見る事はなかなか経験がないと思ひまして、今回、9月場所初日の1週間前ですが、木瀬部屋へお邪魔して朝稽古を見学させて頂きました。

すでに白いまわしの関取と黒いまわしの若手が20人位、土俵を囲んで稽古していました。呼吸を合わせてから立会して、ぶつかった時の音「ドン」とか「ゴン」とか、こんな表現では到底お伝えできない位、この世の物とは思えない迫力、凄すぎです。勝負が決まると、周りにいた若手が勝った方に「ハイ、ハイ、ハイ」と手を挙げながら近づいて次は俺を指名してくれとアピール。力士の呼吸も「ハアハアゼイゼイ」なんてものではありません。本当に目の前での出来事に「こんなのありか!!」度肝を抜かれました。そして稽古も終盤になると、徳勝龍関・常幸龍関らが若手に胸を貸して、「もっと押せ、もっと押せ」と土俵の端から端まで力の限り押しだす稽古4~5回、最後は首根っこをグイグイと押さえられて転がされる。「ホラ、すぐ立ってかかってこい」と。この繰り返しが続きます。最後は、皆で中腰になり前の人のまわしを掴んで(子供の頃遊んだ電車ごっこの感じ)すり足で土俵を数周、逆回りも数周。こういう迫力ある厳しい稽古を目の前で見れてとても感動しました。

稽古が終わった後は、関取の皆さんと記念撮影をさせて頂きました。その後、2階の大広間に案内されますと、テーブルには木瀬部屋特製ちゃんこ鍋とご馳走が並んでいて、ビールで乾杯して食事会が始まりました。ちゃんこ鍋は、根菜・葉物・お肉など10種類以上の具材が入っていて、食べ始めるとナ〜ントすいとんも入っていて、とても美味しかったです。食べている私達の後ろには若手力士が並んで「ちゃんこのおかわりどうですか?ビールはどうですか?」と細やかな給仕をしてくれました。さっきまで厳しい稽古をした人達が、今は少し太めの礼儀正しい好青年になっています。その時に親方が「部屋にも秋田出身がいるよ」と大館市出身の「佐々木山」を紹介してくれまして、皆で応援する事を約束しました。

そうこうしている間に、お風呂からあがってきた「宇良関」にサイン攻め、出稽古から帰ってきた「臥牙丸関」が、床山さんにマゲを直している間にもかかわらず、快く写真撮影に応じて下さいました。そしてお開きとなりました。

本当に楽しい時間を過ごさせて頂きありがとうございました。参加して下さいました皆さん、朝早いにもかかわらずご苦勞様でした。そしてこの企画にご尽力頂きました、阿嘉(元若ノ城)さん、高校の同級生伊東学さんに心から感謝申し上げます。



迫力ある稽古風景

思わず見入ってしまいます

力士の方たちと一緒に



ちゃんこ鍋に舌鼓

ふるさと探訪12

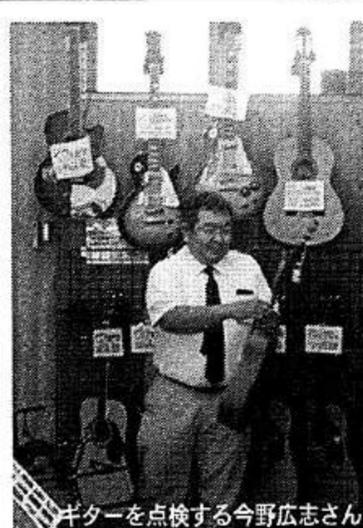
コンノ楽器

由利本庄市の大門周辺は再開発で道幅も広くなり、昔の商店街のイメージからはだいぶ変わっています。JR羽後本庄駅への道と由利橋への道の交差点角は公園として整備され、視界も広くゆったりとした雰囲気です。今回はその大門で長年、楽器屋を営んでいるコンノ楽器の2代目、今野広志さんにお話を伺いました。

「昭和35年に創業し昭和42年に今の場所に移転してからです。当初は学校教材の販売等が中心でしたが、音楽が好きで楽器を演奏する人が増えてゆく中で、楽器の販売へと特化しました。同時にオルガンやピアノ教室も開き、昨年50周年記念コンサートを開催。



様々な楽器が並ぶ店内



ギターを点検する今野広志さん

地域の「音楽のよろず屋」として、音楽を愛する人たちのリクエストに答えられるよう楽器の小さいパーツからギターや管楽器、グラランドピアノ、和楽器まで、幅広く取り揃えています。楽器の修理など、何でも気軽に相談してください。

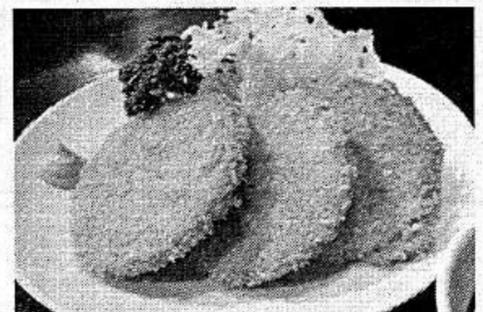
ご自身もかなりの音楽好き。中学校時代はブラスバンドでユーフォニウム、秋田高校時代は軽音楽部、法政大学時代はロックバンドを組み、新宿や当時住んでいた中央線沿線エリアのライブハウスに通っていたとのこと。現在でもリズム&ブルースのバンド活動をしており、地元のイベントに出演したり居酒屋でライブをしたりと多彩に活躍。家業を継ぎつつご自身の音楽へ情熱を成就させるという、まさに理想的なお仕事をされています。

そして、もうひとつ。「本庄ハムフライ・ハム民の会」前会長という顔をお持ちの今野さん。「都市計画事業が進むなかで、ご当地グルメを使って地元を盛り上げよう、街づくりに貢献しよう」と立ち上げました。子供の頃、地元の精肉店で売っていたハムフライ、給食でも食べたあの味が懐かしいなど、地元のイベントで試しに販売してみたところ、あつと言いう間に完売しま

した。プリマハムの工場があったことから、昔から地元でよく食べられていたハムフライ。老若男女問わず愛される昭和の味が今でも受け入れられると実感し、この本庄ハムフライを全国展開するべく、B-1グランプリにも出場しています。この12月には『2016 B-1グランプリスペシャル in東京・臨海副都心』に出場します。ぜひ遊びに来てください！。ホームペー

本庄ハムフライ・ハム民の会

本庄ハムフライHP <http://hamfry.com/>



コンノ楽器

住所 由利本庄市大門50
電話 0184-22-2489
営業時間：9～19時 定休日：なし
<http://k-gakki.ocnk.net/>



ふるさと通信

●「由利本庄市民俗芸能伝承館」の相性が、「まいーれ」に決定！

由利本庄市鳥海町に平成29年3月の開館を目指して建設中の「由利本庄市民俗芸能伝承館」。この6月に愛称が募集され、全国から寄せられた応募作品489点の中から、厳正な選考の結果、由利本庄市にお住まいの佐々木克也さん考案「まいーれ」に決定しました。民俗芸能の保存・伝承・公開を目的に、着々と準備がすすめられています。問い合わせ先 文化課 0184-132-1133

12月3(土)4(日) 『2016B-1 グランプリスペシャル in東京・臨海副都心』 会場：臨海副都心 本庄ハムフライ、登場！

本庄ハムフライが企業HPに紹介されました！
●ブルドッグソースHP <http://www.bulldog.co.jp/gotochi/honjyohamufurai/index.html>
●アサヒビールHP <http://www.asahibeer.co.jp/area/b1/east/index.html>

お詫び●前号49号にて、第27回総会懇親パーティーに賞品を提供して下さった方々のお名前を掲載させていただきましたが、下記の方のお名前が抜けておりました。お詫びし訂正いたします。村岡千鶴子さん、石森薫さん

本庄ふるさと会会報 第50号 編集後記

平成25年43号より編集制作を担当させていただき、早や4年が経ちました。今回は池田会長のアイデアで、50号記念として増ページとなり、これまでとはちょっと違った紙面になりました。役員の方々の熱い思いが詰まっております。また本号はもちろん、これまでもたくさんの方々に寄稿いただきました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。(遠藤桂子)

●「全国フットパスの集い2016 in由利本庄」 イギリス発祥のフットパスは、そもそも「歩くことを楽しむ道」という意味。地域に昔からある風景、森林、街並などを楽しみながら散策することなんだそうです。そのフットパス愛好家たちが集結して、日本の各地で1年に1回開催される「全国フットパスの集い」。今年是由利本庄市で開催されます。10/15(土) 城下町コース「本庄」、ふるさと再発見コース「石脇」、ロングフットパス「小吉川」「水林」。16(日) 城下町コース「亀田」「矢島・旧街道」、景勝地コース「法体の滝」、里山体験コース「坂之下」。問い合わせ先 由利高原鉄道フットパス係 0184-1561273 要事前申込み 参加費1500円